

関西医科大学 広報



関西医科大学創設の地、牧野キャンパスに建設中のリハビリテーション学部棟完成予想図

2021年4月、 リハビリテーション学部開設！(設置構想中)

Vol.48

CONTENTS

法人：理事長年頭所感

P.1

トピックス：世界大学ランキングラン
クイン

P.8

トピックス：介護福祉事業所開設

P.9

トピックス：リハビリテーション学部棟
起工式

P.10

病院：医療安全大会

P.21

附属看護専門学校：キャンドルサービス

P.24

理事長年頭所感・賀詞交換会

1月6日(月)16時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「理事長年頭所感表明」が行われ、総合医療センター、香里病院、およびくずは病院に同時中継されました。

山下敏夫理事長は年頭の挨拶を述べた後、「教育」「研究」「診療」「法人」についての、本学の現状を説明。また今後の計画や方針・目標を語りました。



厳かな雰囲気の中、年頭所感が表明された



挨拶する友田学長

賀詞交換会(枚方学舎)

山下理事長の年頭所感表明の後、枚方学舎医学部棟3階学生食堂に会場を移して賀詞交換会が行われました。会場には法人・大学・附属病院・附属看護専門学校から多数の教職員が集まり、新年をことほぎました。

友田幸一学長は新年の挨拶の中で、一般社団法人日本医学教育評価機構の医学教育分野別評価受審に向けての決意や認知度向上のため海外諸国との共同研究の重要性について語り、さらなる進化を遂げるための体制の強化を誓いました。また、乾杯の挨拶を附属病院澤田敏病院長(常務理事)が務め、「旧年は関西医大が高い評価を受けたが、来年以降も地域から世界に飛躍するため職員全員が一致団結し邁進していきたい」と述べました。

その後会場では教職員が思い思いに歓談し、新年の喜びを分かち合いながら決意を新たにしていました。



乾杯の音頭をとる澤田病院長



挨拶する杉浦病院長

賀詞交換会(総合医療センター)

総合医療センターと天満橋総合クリニックの合同賀詞交換会は、総合医療センター南館3階大会議室にて行われました。総合医療センター杉浦哲朗病院長は「前年は、地域医療支援病院承認と、DPC特定病院群への昇格という大きな2つの目標に取り組んできた。今年もさらなる発展をめざしていきたい」と抱負を述べ、天満橋総合クリニック浦上昌也院長が「旧OMMメディカルクリニック開設から数え50年間、大きな事故なくクリニックを運営し医療を提供してきたことを誇りに、引き続き取り組んでいきたい」と述べて音頭を取り、全員で乾杯しました。



挨拶する神崎病院長

賀詞交換会(香里病院)

香里病院では、8階会議室で賀詞交換会が開催されました。神崎秀陽病院長から、「香里病院の病院成績は堅調であるが、今年もいくつかの乗り越えるべき壁を乗り越えて、皆さんでいい年にしましょう」との挨拶がありました。引き続き神崎病院長が乾杯の音頭を取り、参加者全員で乾杯し、教職員はそれぞれ歓談しました。



挨拶する今村病院長

賀詞交換会(くずは病院)

くずは病院では、2階職員食堂で賀詞交換会が開催されました。今村洋二病院長から理事長の年頭所感に触れて「2020年も職員一同努力していきたい」と挨拶がありました。乾杯の後、職員がそれぞれ歓談しました。



世界ランキングにランクイン



2019年9月12日(木)、英国の高等教育専門誌「タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)」が実施・集計した世界大学ランキング2020が発表されました。

その結果、本学は『501-600』位にランクインしました。同ランキング2019の『801 - 1,000位』から2段階ランクアップしており、国内では国公立の総合大学を含めて14位^{※1}、関西地区では3位^{※2}という位置です。

このランキングは毎年秋に公表されている国際的な大学ランキングで、教育力・研究力・研究の影響力(被引用論文)・国際性・産業界からの収入の5分野13項目をスコア化し、総合力を測ったもので、他のランキングと比べて研究力と教育力に比重を置いた評価が特徴です。

今回評価項目の中で、本学は「被引用論文」において特に高い評価を得て、前年に比べ39.7ポイントも増加しました。本学では附属4病院における臨床研究に関して、研究者を一元的に支援・管理するため、臨床研究支援セ



ンターを設置しています。加えて、研究教授による相談会を開始し、研究に関する基礎的な内容や、プロトコル作成支援、症例数の設定、予算獲得などの幅広い相談内容に個別対応するなど、研究への支援を強化しています。

また、教育分野でも学生教員数比率で過去3年間、世界第3位にランクインしており、博士学士学生数比率は82.5、大学総収入教員比率は79.3と総合的に379位に入っています。

グローバル化の時代においては、大学が世界に開かれ、充実した留学制度・環境が整い、教育・研究の質が保障されていることが重要となります。本学は引き続き、研究者の育成、学部生の教育支援、学習環境の充実や学術の発展に、一層邁進してまいります。

	Rank (順位)	Score (スコア)					
		Overall (総合)	Teaching (教育力)	Research (研究力)	Citations (被引用論文)	Industry Income (産業界からの 収入)	International Outlook (国際性)
2020	501 - 600	35.3 - 38.7	32.3	8.7	70.0	35.6	17.7
2019	801 - 1000	19.0 - 25.9	28.6	7.9	30.3	34.5	16.9
2018	801 - 1000	15.6 - 21.4	26.9	7.0	28.4	32.2	16.8

※1 東京大学、京都大学、東北大学、東京工業大学、名古屋大学、大阪大学、産業医科大学、藤田医科大学、北海道大学、九州大学、帝京大学、東京医科歯科大学、筑波大学に次いで、横浜市立大学と並んで14位

※2 京都大学、大阪大学に次いで3位

枚方市に本学の介護福祉事業所開設

1月1日(水・祝)、附属病院に介護・福祉部門の3施設(訪問看護ステーション・ケアプランセンター・デイケアセンター：以下「同施設」)を開設しました。

同施設では、附属4病院に入院していた退院患者さんの中で、医療支援の必要性が高い方を中心に在宅支援を行うだけでなく、超高齢社会における地域医療サービス体制を構築するとともに、地域医療を担う医師や医学生、看護師などの教育・研修の場として展開する予定です。

なお、本学は京阪本線沿線に総合医療センター(滝井駅)、香里病院(香里園駅)、くずは病院(樟葉駅)で既に介護・福祉部門(以下「同部門」)をそれぞれ設置しており、今回の同施設開設(枚方市駅)により附属4病院全てで同部門の整備が完了します。病気の治療(急性期医療)から日常生活への復帰(回復期・療養期医療)、再発の予防(生活期医療)まで、本学がシームレスに対応できるようになり、自分が自分らしく生きられる健康寿命の延伸にこれまで以上に貢献できるものと考えています。

「関西医科大学附属病院介護福祉部門」概要

住 所	大阪府枚方市新町 1-9-11
事業所名	1. 関医訪問看護ステーション・枚方(訪問看護事業) 2. 関医ケアプランセンター・枚方(居宅介護事業) 3. 関医デイケアセンター・枚方[附属病院内]
構 成 員 (計 画)	○「関医訪問看護ステーション・枚方」 管理者(看護師)1名、訪問看護師3名、理学療法士2名、事務員2名 ○「関医ケアプランセンター・枚方」 ケアマネージャー1名 ○「関医デイケアセンター・枚方」 理学療法士2名、介護要員1名、相談員2名、事務員1名
事業開始日	令和2年(2020年)1月1日(水・祝)開設 ※営業開始は1月6日(月)

関医訪問看護ステーション・枚方

高度急性期の大学病院で治療を受けられた後の在宅医療に不安を持つ患者さん、ご家族の方に対して、継続した医療と看護を提供することで、安心できる日常生活のお手伝いをいたします。

【サービスの内容】

- 症状の観察
- リハビリテーション
- 清拭・入浴・食事などの介助
- 床ずれの予防と処置
- 認知症の看護
- 医療機器の管理など
- ご家族への指導・相談
- ターミナルケア

関医ケアプランセンター・枚方

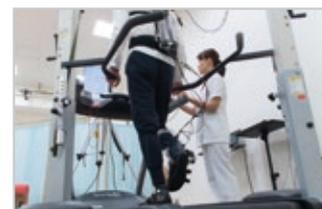
本学の4病院と連携を図り、通院や入院された患者さんが、住み慣れた地域やご自宅で安心した生活が送れるように支援します。関医ケアプランセンター・枚方は関医訪問看護ステーション・枚方に併設されており、情報共有・連携を強化しながら迅速な支援をいたします。

関医デイケアセンター・枚方

本学リハビリテーション医学講座で開発したりハビリテーションロボットやトレーニング機器を導入しており、運動機能や認知機能の改善を通して利用者の介護予防・自立支援をめざします。リハビリテーション科医師、理学療法士が常勤しているため、様々な疾患や症状に対応しています。

【トレーニングの種類】

- 歩行トレーニング
- 持久カトレーニング
- 足関節ロボット
- 転倒予防トレーニング
- 頭のトレーニング
- 歩行解析システム



足関節ロボット

「関西医科大学リハビリテーション学部棟新築工事起工式」 挙行

2019年10月1日(火) 10時15分から、牧野キャンパスのリハビリテーション学部棟建設予定地において「関西医科大学リハビリテーション学部棟新築工事起工式」が挙行されました。朝から絶好の晴天に恵まれ、山下敏夫理事長、友田幸一学長をはじめ、近隣自治会長などの地元関係者、さらに設計と施工担当の前田建設工業株式会社諏訪俊雅常務執行役員関西支店長他工事関係者など30名が列席。厳粛な雰囲気の中神官の祝詞奏上に続き、山下理事長ほか代表者による地鎮之儀が行われ、2021年1月の竣工に向け工事の無事を祈りました。

神事終了後の11時からは36名が出席し牧野講堂(武道館)で直会が行われ、山下理事長、諏訪支店長の挨拶に続き、友田学長の乾杯の発声により開宴。和やかな雰囲気の中参加者が談笑する姿が見られ、最後に前田建設工

業株式会社関西支店関西医科大学作業所田口英孝所長による手締めにて散会となりました。

今後は、2021年4月の開設に向け工事を進める他、リハビリテーション学部(仮称)の設置認可申請書を提出する予定です。



直会で挨拶をする山下理事長

リハビリテーション学部(仮称) 2021年4月設置構想中

現代の医学技術の発展に伴い、多くの生命が救われるようになっていきます。そして、その後の生活を支えるリハビリテーション医療では、より高度な知識と専門的技術が求められています。

本学は、2021年4月の開設に向け、リハビリテーション学部(仮称)を設置構想中です。医学部・看護学部を持つ医療系複合大学ならではの強みを最大限に活かした学びを展開します。

設置構想中の学部及び学科の概要

学 部 名 称	リハビリテーション学部(仮称)
学 科 名 称	理学療法学科(仮称) 作業療法学科(仮称)
入 学 定 員	リハビリテーション学部理学療法学科(仮称):60名 リハビリテーション学部作業療法学科(仮称):40名
取 得 学 位	学士(理学療法学):Bachelor of Physical Therapy 学士(作業療法学):Bachelor of Occupational Therapy
卒業時に得られる資格	理学療法士国家試験受験資格 作業療法士国家試験受験資格
設 置 場 所	〒573-1136 大阪府枚方市宇山東町18-89 関西医科大学牧野キャンパス (現関西医科大学附属看護専門学校所在地(※2021年3月閉校))
卒業生の就職先想定	本学附属医療機関群を始めとする保健・医療・福祉施設
今後の申請スケジュール	2021年4月の開設に向けて、2020年3月末に文部科学省へ学部設置申請を行います。

※上述の内容は2020年2月1日現在の計画であり、今後変更する可能性があります。

※その他詳細については、今後本学から適宜公表する予定です。

「施設設備整備拡充資金」の募集のご案内

【募集要項】

1. 募集対象

本学学生の保護者、同窓会員、本学関連の個人および法人その他

2. 申込方法及び払込方法

法人事務局財務部募金室に寄付金申込書をご提出(送付)いただいたうえで、本学指定の銀行口座に振込み、又は、ご持参ください。

【税制上の優遇措置】

●個人の場合

■所得税(どちらか一方の制度を選択)

(A) 所得控除(「寄附金控除」)

寄付金額から2千円を差引いた金額を所得金額から控除できます。所得控除を行なった後に税率を掛けるため、所得税率が高い高所得者の方に減税効果が高くなります。※寄付金額は総所得金額等の40%が限度となります。

(B) 税額控除(「公益社団法人等寄附金特別控除」)

寄付金額から2千円を引いた額の40%が税額控除の対象額となります。税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口の寄付に減税効果が高くなります。

■住民税

お住まいの市町村の条例により個人住民税において寄付金税額控除の対象となることがあります。

詳しくはお住まいの市町村の住民税担当課にお問い合わせください。

●法人の場合

受配者指定寄付金制度を利用することで寄付金全額が損金算入されます。

最大40%が減額されます

【お問い合わせ先】

関西医科大学法人事務局財務部募金室 〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL: 072-804-2146 FAX: 072-804-2344 メール: bokin@hirakata.kmu.ac.jp HP: <http://www.kmu.ac.jp/donation/index.html>

なお、この募金の応募は任意です。

令和元年10月から令和元年12月までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

平成31年1月1日から令和元年12月31日までにご協力いただきました寄付金の確定申告は、令和2年2月17日(月)から3月16日(月)までとなっております。

期間内にお手続きいただきますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら募金室までお問い合わせください。

遺贈・相続財産によるご寄付のご案内

近年、遺贈によるご寄付が社会貢献の一つとして認識され、増加しております。本学では、これらの要望に対応するため、今年度より三井住友信託銀行、三菱UFJ信託銀行と「遺贈による寄付制度」について協定を結びました。改めて「遺贈」によるご寄付と「相続財産」によるご寄付を紹介させていただきます。

【遺贈によるご寄付】

●遺贈によるご寄付とは

遺言によって資産の全部、または一部を本学に寄付する制度です。

・信託銀行が遺言執行までサポートします。

ただし、信託銀行へ手数料が発生いたします。

●遺贈によるご寄付の流れ

本学または信託銀行へご相談

遺言書の作成・保管

遺言の執行

本学へご寄付

【ご相談窓口】

・三井住友信託銀行
大阪本店法人業務部第三課
06-6220-2515
・三菱UFJ信託銀行
梅田支店
06-7636-0780
募金室から信託銀行へお取次ぎいたします。

【相続財産によるご寄付】

●相続財産によるご寄付とは

故人様の遺志によって、相続財産から本学に寄付する制度です。

・本学にいただいたご寄付は申告することにより、その分の相続税を非課税にすることができます。

・相続財産によるご寄付は、**現預金のみ**お受けしております。

●相続財産によるご寄付の流れ

ご遺族様からご相談・お申し出

ご遺族様よりご寄付の実施

本学から文部科学省に「相続税非課税対象法人の証明書」を申請

本学からご遺族様へ「相続税非課税対象法人の証明書」と領収書を送付

このあと、ご遺族様にてご逝去された日より10ヶ月以内に相続税の申告・納付をお願いいたします。

「2020年度入職予定者（事務員）内定式・懇親会」挙行

2019年10月1日(火) 14時から枚方学舎医学部棟4階中会議室において、神崎秀陽常務理事が臨席して「2020年度入職予定者(事務員)内定式」が挙行されました。この日は2020年度入職予定の事務員内定者5名が出席。神崎常務理事によるあいさつの後、内定証書が内定者一人ひとりに手渡されました。その後、内定者は一人ずつ自己紹介と入職後の決意表明を行い、不安と期待の中、本学で働くことについて自身の思いを語りました。

内定式終了後は、同4階カフェテリアにおいて先輩職員を交えて内定者懇親会を開催し、親交を深めました。



内定式出席者

「2020年度入職予定者（看護部）内定式・懇親会」挙行

2019年10月5日(土) 12時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「2020年度入職予定者(看護部)内定式」が挙行されました。この日は2020年度入職予定の看護師・助産師内定者145名が出席。岡崎和一理事、安田照美統括看護部長のあいさつの後、内定証書が代表の内定者に手渡されました。最後に小坪浩之感染管理認定看護師からの講話があり、内定者は真剣な面持ちで話に耳を傾けていました。

その後、場所を同3階学生食堂へ移して懇親会が開催され、先輩職員を交え終始和やかな空気の中、食事や企画を通じて親睦を深めました。



内定式であいさつをする岡崎理事

関医・看護師リカレントスクール修了式挙行

2019年11月22日(金) 14時30分から附属病院13階講堂において、関医・看護師リカレントスクール金子一成スクール長、安田照美統括看護部長はじめ教職員7名が列席し「関医・看護師リカレントスクール第2期修了式」が挙行されました。

臨席者紹介、金子スクール長からの告辞に続き、修了者6名それぞれに修了証書が手渡されました。その後は、修了生挨拶として一人一人から受講の感想や教職員への感謝が述べられ、閉式の辞により終了しました。

なお、当スクールは開校以降問い合わせや反響が非常

に大きいことから、2020年6月～7月に第3期を開講予定です。



式辞を述べる金子リカレントスクール長



今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	10月1日	2020年度入職予定者(事務員)内定式・懇親会	
	10月5日	2020年度入職予定者(看護部)内定式・懇親会	
	11月22日	関医・リカレントスクール修了式	
	12月19日	職員コンプライアンス研修	
	12月23日	目標チャレンジ制度優秀者表彰	
	1月6日	理事長年頭所感表明・賀詞交換会	
	大学	9月14日・11月9日・12月14日	
10月5日		「障がいのある子どもの力を高めるための災害教育」研修会開催	
10月5日		ひらめきときめきサイエンス	在日セネガル大使来学
10月7日～		地域生活援助論実習I	
10月8日		学生からの教育評価に基づく教員の表彰式	
10月17日		学長賞授与式、課題川柳表彰、TOFELITP表彰	
10月20日		慈仁会全国懇談会	
10月25日・11月29日		大学院企画セミナー	
10月28日		国際交流セミナー「安全なチーム医療を目指して」	
10月30日		実験動物慰霊祭	
11月2日		看護学部保護者会	
11月2日		子ども大学探検隊	
11月1日・2日・3日		霜月祭2019	
11月16日		学術祭	
11月17日		ひらかた市民大学	
11月18日		パーモント大学関係者来学、学長面会、講演会	
11月20日		大学院教育ワークショップ	
12月2日		大学院医学研究科説明会	
12月3日		教員と学生との懇談会	
12月5日	国際交流フォーラム		
12月9日	在日セネガル大使来学		
病院	10月29日	医療ニーズ発表会	
	11月9日	連携病院の会	
	11月30日	看看連携の会	
	12月23日	医療安全大会	
附属病院	9月30日・10月2日・3日	大阪地方裁判所病院見学	
	10月15日	日本・フィリピン経済連携協定(EPA)によるフィリピン人看護師候補者病院見学	
	11月3日	市民公開講座(整形外科)	
	11月15日	がん予防につながる学習活動の充実支援事業	
	11月27日	救急フォーラム	
	11月30日	スマイル会	
	12月10日	秋季消防訓練	
12月18日	子ども病棟クリスマス会		
総合医療センター	12月19日	保育所クリスマス会	附属病院子ども病棟クリスマス会
	10月20日	TAKE! ABI 2019 in KANSAI	
	10月20日	日曜乳がん検診	
	10月21日	市民健康講座	
香里病院	11月2日	総合医療センター災害訓練	総合医療センター世界糖尿病デーフェスタ
	11月16日	世界糖尿病デーフェスタ	
附属看護専門学校	10月5日	市民公開講座	
	10月5日	ホームカミングデー	
卒後臨床研修センター	12月18日	キャンドルサービス	総合医療センター世界糖尿病デーフェスタ
	10月11日・12日	臨床研修指導医養成講習会	
	10月28日・11月20日・12月17日	臨地実習指導者研修	
	11月5日	看護副師長研修	
	11月16日	2021年度採用研修医説明会	
	12月2日	教育担当者研修	
	12月11日	附属病院研修管理委員会	
	12月11日	総合医療センター研修管理委員会	
12月20日	教育担当者研修		

第3回学術祭開催

2019年11月16日(土)・17日(日)、枚方学舎医学部棟1階オープンラウンジにおいて、「第3回学術祭」が開催されました。これは、本学における学術研究の更なる進展を目的に、これまで行われていた「学内学術集談会」を発展させたもので、昨年、一昨年に引き続いての開催となりました。初日は放射線科学講座谷川昇教授の開会の辞、友田幸一学長の挨拶で幕を開け、2日間で延べ221名が参加しました。



挨拶する友田学長



看護学部シンポジウムの様子



ポスター発表の様子

【主なプログラム】

■看護学部シンポジウム「看護学部の社会貢献」

看護学部こども看護学領域加藤令子教授の総合司会の元、母性看護学領域酒井ひろ子教授、精神看護学領域三木明子教授、加藤教授が登場。それぞれ子どもの貧困と支援、医療機関における暴力防止対策、障がい等のある子どもへの災害準備教育について講演しました。

■KMU研究コンソーシアム

薬理学講座中邨智之教授の総合司会の元、7名の演者から取り組んでいる研究の概要が発表されました。

■研究ブランディング事業

本学が文部科学省平成30年度研究ブランディング事業「難治性免疫・アレルギー疾患の最先端研究拠点大学としてのブランド形成」に選定されたことを受け、木梨達雄副学長が研究ブランディング事業概要を説明しました。その後は6名からそれぞれが取り組む研究の概要が発表され、その後友田学長と参画講座教員とのパネルディスカッションが行われました。

■ランチョンセミナー「皮膚疾患の漢方治療」

兵庫医科大学皮膚科学講座夏秋優准教授による講演が行われました。

■「医学会賞応募演題口演」

9名の演者による口演が行われました。

※受賞者は4月発行予定の「広報Vol.49」にてご紹介する予定です。

■「ポスター発表・フラッシュトーク」

生理学講座中村加枝教授の総合司会の元、留学生、大学院生、研究医養成コース学生により、「ポスター発表プレゼンテーション」とそれに先立つフラッシュトークが行われました。

【受賞者】

平成30年度学内研究助成D1(若手研究者) D2(大学院生)

- ・D1 1位：富山 尚 講師(内科学第三講座)
「大腸癌エクソソームがもたらす生体内での腫瘍免疫変化の解析」
- ・D2 1位：赤川 翔平 助教(小児科学講座)
「小児における尿中尿毒素を用いた腸内細菌叢の評価方法の検討」

令和元年度学内研究助成E(研究医養成コース)

- 中島 啓子 (医学部3学年：解剖学講座)
「質量顕微鏡を使った腎臓における硫酸化糖脂質分子種の同定と可視化」

ひらかた市民大学2019 開講

2019年11月17日(日)10時から、枚方学舎医学部棟1階オープンラウンジにおいて「ひらかた市民大学2019」が開催され、枚方市民ら84名が参加しました。このイベントは、本学も参画する学園都市ひらかた推進協議会及び枚方産学公連携プラットフォームの事業として、毎年開催しているものです。今年は「がんの最新の医療—関西医科大学の取り組み—」をテーマに開催されました。

冒頭、友田幸一学長が挨拶に立った後、内科学第一講座倉田宝保診療教授(附属病院呼吸器腫瘍内科)が講演。肺がんの概要や最新の治療法を開講しました。続いて外科学講座杉江知治診療教授(附属病院乳腺外科)が登場し、乳がんをテーマに実際の症例を踏まえつつ最近の治療トレンドを紹介しました。

参加者はメモを取りながら熱心に聴講し、講演後は興味のある演者のもとに赴いて日頃気になっていることなどを相談していました。



挨拶を述べる友田学長(画面右奥)

2019年度霜月祭「signal a new era」

2019年11月2日(土)・3日(日・祝)の両日、枚方学舎各所において「2019年度霜月祭」が開催されました。今年は初日の10時、中庭に設置された特設ステージでのオープニング企画で開幕。2日間にわたって、軽音楽部やフォークソング部による演奏、ダンス部の演技など、多彩な企画が繰り広げられました。

また今年も、各クラブが模擬店を出店。留学生らによる模擬店も出店され、ベトナム料理やモンゴル料理、中国料理が各国からの留学生によってふるまわれました。

さらに医学部棟1階オープンラウンジでは、医科大学ならではの企画「医学博」が開催され、BLS(一次救命措置)体験、外科医の手技を体験できる「糸結び」、附属

病院で医師が着用しているスクラブを試着できる体験コーナー、「漢方に触れよう」など、さまざまな企画が実施されました。



軽音楽部によるステージ

2019年度第3回大学院企画セミナー開講

2019年11月29日(金)17時30分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、2019年度第3回大学院企画セミナーが開講され、本学教職員の他学内外から61名が出席しました。この日はiPS・幹細胞再生医学講座服部文幸研究教授が司会を務め、慶應義塾大学医学部内科学教室循環器内科福田恵一教授が「臨床応用前夜となったヒトiPS細胞由来再生心筋細胞を用いた難治性重症心不全治療法の開発」と題して講義。福田教授は、自身が開発したTiPS細胞を用いる難治性重症心不全治療法について、その方法論や特徴、今後の展開などを解説しました。

出席者は熱心に聴講し、質疑応答でも臨床現場や基礎研究の観点から実践的な質問が飛び出すなど、セミナーは盛り上がりを見せました。



iPS細胞について解説する福田教授(画面奥中央)

第45回実験動物慰霊祭挙行

2019年10月30日(水)13時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「第45回関西医科大学実験動物慰霊祭」が執り行われ、友田幸一学長や木梨達雄副学長(研究担当)をはじめ、動物実験に関わる教職員が列席しました。冒頭、参加者全員で黙とうを捧げたのち、実験動物飼育共同施設平野伸二施設長(生物学教室教授)が、これまでの医学の発展において、実験動物の存在はなくてはならないもので、今後も社会的に適切に動物実験を行っていく必要がある旨を述べ、慰霊の辞を捧げました。その後、15時まで加多乃講堂に設けられた献花台に、研究者や

教職員が次々と慰霊に訪れました。



慰霊の辞を読み上げる実験動物飼育施設平野施設長

慈仁会全国懇談会を開催

2019年10月20日(日) 11時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂、同1階試験実習室、第1～4講義室他各所において、慈仁会全国懇談会が開催されました。全国各地から本学医学部学生の保護者が集まった他、友田幸一学長や福永幹彦学生部長、野村昌作医学部教務部長など教職員らあわせて、約350名が参加。懇談会は慈仁会中村登会長の挨拶で幕を開け、続いて友田学長が本学の現況と近未来を講演し、福永学生部長が学生生活の概況を、野村医学部教務部長がカリキュラムの現状を解説しました。

その後は学年別に、健康科学教室木村穰教授(1学年)、数学教室北脇知己教授(2学年)、iPS・幹細胞再生医学講座人見浩史教授(3学年)、法医学講座赤根敦教授(4学年)、整形外科学講座齋藤貴徳教授(5学年)、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座岩井大教授(6学年)の、各学年クラスアドバイザーと保護者が懇談を行いました。また、懇談会に続いて学内参観も行われ、保護者は学生が普段過ごしている図書館やシミュレーションセンター(以上医学部棟3階)を見学。学生食堂・歴史資料室(以上同3階)、カフェテリア(同4階)、オープンラウンジ(同1階)など、保護者は興味深そうに見学していました。

「令和元年度看護学部保護者懇談会」を開催

2019年11月2日(土) 10時から枚方学舎看護学部棟2階講義室1において、看護学部1学年および2学年の保護者と看護学部教員が参加し、「令和元年度看護学部保護者懇談会」が開催されました。

保護者懇談会全体会開催にあたり、冒頭に友田幸一学長が挨拶。続いて看護学部片田範子学部長、加藤令子看護学部教務部長、近藤麻理学生副部長、太田祐子准教授(1学年クラス担任)、山下裕紀准教授(2学年クラス担任)が順に看護学部の現状と学生の様子、各学年の状況などについて報告しました。

また、全体会終了後には茶話懇談会、希望者による個別面談が開催され、茶話懇談会では授業や部活動・サークル、大学での学生生活を中心とした話題に保護者と教職員との会話も弾み、保護者と教職員との盛んな交流の場となりました。

長尾教授が来日し、国際交流セミナーに登壇

2019年10月28日(月) 17時15分から枚方学舎医学部棟1階加多乃講堂において、第7回国際交流セミナーが開催されました。今回は医療安全管理センターとの共催という形で実施され、医療安全管理センター宮崎浩彰副センター長司会のもと、第1回から続けて講師を務めるカリフォルニア大学サンフランシスコ校(アメリカ)リハビリテーション科長尾正人教授が登壇。「安全なチーム医療を目指して」とのテーマで講演が行われ、カリフォルニア大学サンフランシスコ校でのチーム医療の取り組みや、医療の安全と質の向上のためにしている活動についてご講演いただきました。

友田幸一学長を始め、リハビリテーション医学講座長谷公

隆教授、菅俊光診療教授、腎泌尿器外科学講座松田公志教授ら教員の他、2020年4月から国外臨床実習で留学することになっている学生など、46名が熱心に耳を傾けていました。



長尾教授(前列右から3人目)と参加者

バーモント大学関係者来学、学長面会、講演会開催

2019年11月18日(月)、本学と学術交流協定を締結しているバーモント大学(アメリカ)から木田正俊教授らが来学し、14時30分から友田幸一学長を表敬訪問しました。

同日17時から、木田教授により「バーモント大学の紹介」、Dr. Scott Andersonにより「“Competency-based” resident training and evaluation」、Dr. Krista Evansにより「Women in Medicine: encouraging women to pursue surgical subspecialties」、Dr. Rebecca Wilcoxにより「Activate Your Learning! The shift from traditional lectures towards active based learning in health care education」と題した講演がそれぞれ行われました。授業の活性化をテーマとした講演では受講者にスクラッチカードが配られ、講師か

ら提示された質問に対して、それぞれの受講者が正答と判断した選択肢を削るなどの方式も取り入れられていました。

講演後は医学部生から医師としての進路選択に関して英語で質問が出るなどし、盛会裏に幕を閉じました。



講演終了後、参加者の前に立つ木田教授(左から2人目)他

国際交流フォーラム2019開催

2019年12月5日(木) 17時30分から、海外からの留学生、研究員13名に加え、本学学生と教職員他、総勢40名が集い「国際交流フォーラム2019」が枚方学舎医学部棟3階学生食堂において開催されました。

会の冒頭、司会の国際交流センター鈴鹿有子センター長の開会宣言後、友田幸一学長から挨拶と2021年完成予定の本学タワー棟(仮称)が留学生や海外からの来客向けであることなどに触れながらグローバルな結びつきについて語られました。全員での乾杯で幕を開け和気藹々の会の中盤、医学部学生の国際交流活動の紹介として、4学年宮本実紀さん、渡邊彩実さんのプレゼンテーションが行われました。

その後は、ベトナムからの留学生Nguyen Manh Linhさん(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)、Huynh Nguyen

Mai Trang (皮膚科学)、ラオスからの研究員Phephet Lamingao (衛生・公衆衛生学)さん、中華人民共和国からの留学生Ma Yuanyuan (形成外科学)さん、エジプトからの研究員Mohamed Shabanaさん(心臓血管外科学)が、それぞれ自身の研究や母国について発表しました。



参加者全員での記念撮影

看護学部生「地域生活援助論実習Ⅰ」に参加

2019年10月上旬から11月にかけて、看護学部2年生全員が「地域生活援助論実習Ⅰ」に参加しました。これは、1年次から2年次までの学習を基に日本各地で1週間程度の実習を行うもの。地域の生活や住民の健康、健康教育などを広く学ぶ、本学看護学部の特徴的な実習です。

学生らはそれぞれ10名のグループに分かれ、北海道・秋田県・岡山県・高知県など、日本各地で実習を行います。学生たちは、保健所での保健師による地域での業務に関する講義受講、保健師による家庭訪問への同行、地域の子育てサロンでの活動支援、高齢者サロンでの健康教育など、様々な活動に参加しました。

学生らは、実習先の居住者やその健康を支える保健師とのやりとりを通し、多くの学びを得たようでした。



子育てサロンで参加者の母親の話に耳を傾ける学生ら(岡山県西栗倉村)

大学体験事業「一日お医者さん！」開催

2019年11月2日(土) 13時から、枚方学舎医学部棟において枚方市内在住および市内の学校に通う小中高生を対象とした2019年度子ども大学探検隊・中高生大学体験事業「一日お医者さん! ~今の医学にふれる体験学習~」が開催され、抽選で選ばれた児童・生徒17名が参

加しました。これは、学園都市ひらかた推進協議会が行う事業の一環で、枚方市と市内5大学が連携して“魅力あるまちづくり”を目的として行われたもの。本学においては5回目の開催となりました。

当日は冒頭友田幸一学長が挨拶した後、小学生は枚方学舎医学部棟5階セミナー室C、Dで心療内科学講座の福永幹彦教授らによる体験実習、中高生は枚方学舎医学部棟1階実習室1Bで耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の神田晃講師らによる実験体験を実施。

枚方学舎医学部棟3階シミュレーションセンターでは手洗い指導体験や看護師体験、BLS(一次救命処置)が行われ、その際には看護学部国際看護学領域近藤麻理教授らによる詳しい解説もあり参加者全員、真剣な眼差しで学んでいました。最後に枚方市役所産業文化部生涯学習課平田益久課長からの挨拶の後、福永教授から修了証が参加者全員に手渡されました。



体験に参加した小中高生ら

医療ニーズ発表会を開催

2019年10月29日(火) 17時から枚方学舎医学部棟4階中会議室において、「医療ニーズ発表会」が開催されました。これは、本学教職員が日常の医療業務の中で感じるニーズと、企業が持つ既存の製品群や開発ノウハウとを結びつけ、新たなソリューションの創出を目的とした取り組みで、今回で2回目の開催となりました。産学連携知的財産統括室佐々木健一顧問の司会でスタートした今回の発表会では25人の本学教職員が33のテーマについて、全国各地から集まった57社72名の製販企業の担当者に向けて医療ニーズを発表。発表後の名刺交換では

面談を希望する担当者で長蛇の列ができるなど、今後の可能性を大いに感じさせるイベントとなりました。



発表会の様子

第3回 乳児院が展開する産前産後母子支援事業研修会開催

2019年12月14日(土) 10時から、附属病院13階講堂において「第3回乳児院が展開する産前産後母子支援事業研修会」が開催されました。これは、大阪乳児院が実施する産前産後母子支援事業で大学と締結した事業展開は全国で初めてです。医療、保健、福祉対象者を対象に、社会的ハイリスク状態にある対象の虐待を未然に防ぎ子どもと家族を支援することを目的とした研修で、115名が参加しました。

看護学研究科酒井ひろ子教授の挨拶の後、同教授が『メンタルヘルスに課題のある母親と支援』と題して、妊娠うつ・産後うつの危険因子や予防・防止・早期発見・支援方法等について紹介。続く大阪府済生会大阪乳児院の上村由紀看護師による講演『乳児院における親支援と特徴』では、大阪乳児院での産前産後支援介入方法とその結果について実例を用いて紹介されました。

さらに大阪母子医療センター甲斐紀子看護師から『周産期における親支援と特徴』と題して総合周産期センターの産後ケアについて講演が行われました。

その後、予防再統合事業と産前産後母子支援事業について現場で事業にあたる教員、保育士、看護師による2つのセッションが行われ、酒井教授による閉会挨拶をもって閉会しました。



講演を行う酒井教授

「障がいのある子どもの力を高めるための災害教育」研修会開催

2019年10月5日(土) 10時から枚方学舎看護学部棟3階第2・第3講義室において、「障がいのある子どもの力を高めるための災害教育」研修会が開催されました。

第一部では、看護学部加藤令子教授が、自身の研究チームがこれまで開発した災害に備えるためのパッケージについて説明しました。

その後、茨城県立水戸聾学校岡村正洋校長が、管理者の役割・組織作りに関する茨城県での取り組みについて、また茨城県立水戸飯富特別支援学校岡本功教諭が、特別支援学校教員の立場から見た活用の実際について、紹介しました。

第二部では「障がいのある子どもの災害備えパッケージ」導入に向けてのテーマでワークショップが行われ、活発な議論が交わされました。



研究チームが開発中のパッケージについて説明する加藤教授

研究最前線

社会にもインパクトを与える大型研究。本学の研究者の活躍の一端をご紹介します。

「自己免疫性膵炎」の研究

—新たな疾患概念および診断基準確立への貢献—

内科学第三講座 岡崎 和一 教授

—先生のご専門について教えてください。

専門は消化器病学、特に膵臓病学です。中でも長年取り組んできたのが「自己免疫性膵炎」。消化器内科専門医を目指して歩み始めた1980年代前半、特発性慢性膵炎の原因を明らかにすることをテーマに「自己免疫と膵炎の研究」を開始しました。

—どのような研究をされてきたのでしょうか？

私は1981年に新設高知医科大学(現高知大学医学部)に赴任。当時、免疫異常が関連する膵炎があるということはわかっていましたが、中にはがんと鑑別が非常に困難な症例もありました。

1980年代中頃には、膵特異抗原の探索をテーマに研究しており、ブタ膵臓のホモジナイズ成分をゲル濾過クロマトグラフィーで精製分離し、その各成分を抗原としたモノクローナル抗体作成を試みていました。1989年に当時大学院生であった田村智博士とともに膵管・胆管・唾液腺・腎尿細管などに広く分布する外分泌腺導管抗原の分離に成功。膵特異抗原(Specific pancreas antigen)と田村博士の名(Satoru's pancreatic antigen)をもじりSP3-1抗原と命名して、慢性膵炎との関連性について検討していました。その結果、原因不明の特発性慢性膵炎患者やシェーグレン症候群患者の一部にSP3-1抗原に対する自己抗体が存在することを見出しました。

なおこのモノクローナル抗体作成は、1984年にジョルジュ・J・F・ケーラー(Georges Jean Franz Köhler)、セーサル・ミルスタイン(César Milstein)、ニールス・イェルネ(Niels Kaj Jerne)らにより確立された細胞融合法による単クローン抗体作成技術を用いており、彼ら3名にはこの業績により1984年のノーベル医学生理学賞が授与されています。

—「自己免疫性膵炎」の疾患概念に関して教えてください。

自己免疫異常と膵炎の記述は1961年のサル(Sarles)らによる高ガンマグロブリン血症を認めた慢性膵炎症例の報告を嚆矢としますが、わが国では、1978年に中野氏らによるステロイドによって膵腫瘍がなくなったシェーグレン症候群の症例報告が初と考えられます。

1961年のサルらの高ガンマグロブリン血症を伴う膵炎報告以前に、1892年のミクリッツ(Mikulicz)らによる涙腺・唾液



腺の腫脹を特徴とするMikulicz病があり、また1967年のカミングス(Comings)らの全身各臓器の線維硬化性病変を特徴とする家族性多巣性線維性硬化症(Familial multifocal fibrosclerosis)、1972年のラサネン(Räsänen)らの硬化性唾液腺の炎症性腫瘍(Küttner tumor)など、一見関連のなさそうな疾患概念が独自で提唱されていました。

1995年に東京女子医科大学の吉田氏が自己免疫性膵炎(autoimmune pancreatitis; AIP)の疾患概念を提唱し、これを契機に当該領域の研究に日本人が大きく寄与していくこととなりました。

その後2001年の浜野氏、川氏らによる自己免疫性膵炎における高IgG4血症の報告を契機に自己免疫性膵炎はわが国より発信された新しい疾患として大きく進展しました。また、わが国に多いAIPと欧米で報告されているAIPのかかなりの症例とでは患者の年齢層や病理組織学的特徴に異同があり、長らく論争になっていました。2011年には、わが国に多いIgG4関連AIPを1型AIPとし、好中球上皮病変(granulocytic epithelial lesion: GEL)を特徴とするAIPを2型AIPとして分類することに国際的なコンセンサスが得られました。

さらに、1型AIPでは膵の炎症が強いにも関わらず何故腹痛症状に乏しいのか、その臨床像は長い間謎でしたが、我々の研究グループはこの点に関して、1型AIP患者の膵組織に分布する神経線維に注目し、腹痛症状のある慢性膵炎の膵組織と比較検討したところ、症状の強い慢性膵炎患者の膵では神経線維が太く数も増加している一方、1型AIPの膵では神経線維の数、太さのいずれも明らかに軽度であったことを見出しました。一方自己免疫性膵炎を含む、高IgG4血症を特徴とする一連の疾患群をIgG4関連疾患(IgG4-related disease: IgG4-RD)として、統一疾患名・概念および包括診断基準が、2011年に私が研究代表をしていた厚生労働省難治性疾患研究班により

提唱され、同年のボストンでの国際シンポジウムにおいてIgG4-RDの概念と疾患名についての国際的なコンセンサスが得られ、今ではIgG4に関連するAIPはIgG4-RDの膵病変と位置付けられています。

病因病態には未だ不明な点が多いものの、免疫遺伝学的因子を背景に環境因子、自然免疫系や獲得免疫系などの免疫学的因子などが複雑に関わることが推定されています。今後はさらなる研究による病因病態解明が望まれます。

—研究への思いや後輩へのメッセージを

症例報告というのは非常に大切です。私の「自己免疫性膵炎」の研究も、すべて症例報告からスタートしたとも言えます。新たな病気の発見は、まさに臨床家の勲章ともいえるもの。新しい病気の発見には、1例1例の症例を大切にすることが大切です。常に「目の前の患者さんが先生」という気持ちを持ってください。

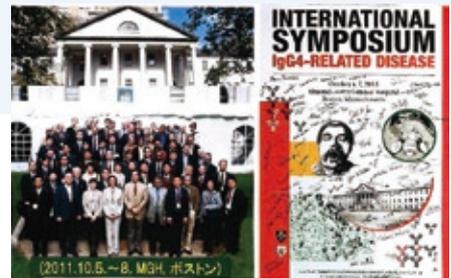
※この記事はインタビューをもとに再構成したものです。

■主な競争的研究費採択歴

- 2016 科学研究費助成事業基盤研究(C)
「自己免疫性膵炎の病態形成における自然免疫系異常に関する研究」
- 2017 科学研究費助成事業基盤研究(C)
「自己免疫膵炎の免疫病態と線維化における自然免疫の関与に関する研究」
- 2017・2018 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)
「IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究」

関西医科大学在職中(2003年4月～2020年3月)における自己免疫性膵炎・IgG4関連疾患に関する研究により獲得した競争的研究費総額【総額】 443,562,000円

- 研究費内訳
- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 文部科研費：33,650,000円 | 2. AMED：7,700,000円 |
| 3. CREST：18,315,000円 | 4. 厚生労働科研費：383,897,000円 |



2011年ボストンにおける国際シンポジウム

■略歴

- 1978年3月 京都大学医学部卒業
- 1986年11月 医学博士(京都大学)
- 1988年4月 ニューヨーク医科大学 客員研究員(消化器病研究所)
- 1989年4月 州立ニュージャージー医科歯科大学 客員研究員(中央研究所)
- 1995年5月 高知医科大学(現高知大学医学部) 助教授(第一内科)
- 1996年11月 京都大学医学研究科助教授(光学医療診療部・消化器内科)
- 2003年4月～ 関西医科大学内科学第三講座 主任教授
- 2010年4月～ 関西医科大学附属病院 副病院長(兼任)
- 2016年4月～ 関西医科大学 常任理事・評議員

■所属学会・研究会(役職・資格等)

- ・日本膵臓学会(理事長(2016/8-)、理事(2010/4-))
- ・国際膵臓学会(International Association of Pancreatology: Council Member(理事))(2008/4-)
- ・アジア太平洋消化器病学会(APAGE) Council Member(理事)(2013/4-)
- ・アジア太平洋膵臓学会(AOPA) Secretary General、Council Member(事務局長/理事)(2016/8-)
- ・日本消化器関連学会機構(JDDW) 理事(2016/12-2018/12)
- ・日本消化器病学会理事(2011/1-2017/3)
- ・日本内科学会功労会員、理事(2013/4-2015/3)
- ・日本消化器免疫学会理事(2010/8-)
- ・日本炎症性腸疾患学会理事
- ・日本消化器内視鏡学会監事(2018/4-)

■【厚生労働省研究班】難治性疾患克服事業

- ・特定研究：炎症性腸疾患の画期的治療開発研究班 代表研究者(2016-2018)
- ・IgG4関連全身疾患の病態解明と疾患概念確立のための臨床研究 研究代表者(2004-2007)
- ・IgG4関連疾患の診断基準ならびに治療指針の確立を目指す研究 研究代表者(2018～)

病 院

第5回関西医科大学連携病院の会

2019年11月9日(土) 17時から、リーガロイヤルホテル(大阪市北区)『光琳の間』において、「第5回関西医科大学連携病院の会」が開催され、本学附属医療機関の連携病院医師ら415名が参加しました。この日は地域医療センター谷川昇センター長(放射線科学講座教授)司会のもと、山下敏夫理事長の挨拶で開幕。続いて大阪府健康医療部藤井睦子部長が登壇し、香里病院神崎秀陽病院長が座長を務める中、「大阪の医療提供体制をめぐる動き～地域医療構想・働き方改革・医師確保～」をテーマに、講演しました。続いて附属病院澤田敏病院長、総合医療センター杉浦哲朗病院長、香里病院神崎病院長、くずは病院今村洋二病院長が、それぞれ附属医療機関の近況を報告しました。

その後、会場を同ホテル『ロイヤルホール』へ移し、

懇親会がスタート。本学各講座の教授や教員も出席し、出席者と盛んに情報を交換するなど、親交を深めました。



冒頭に挨拶する山下理事長(左)

病 院

第16回医療安全大会開催

2019年12月23日(月) 17時30分から、附属病院13階講堂・合同カンファレンスルーム、総合医療センター南館2階臨床講堂、香里病院8階会議室の3病院4会場を遠隔会議システムで結び、「第16回医療安全大会」が開催されました。本年は附属病院149名、総合医療センター120名、香里病院61名の計330名が参加しました。

医療安全管理センター金子一成センター長が司会を務め、開会に先立ち、山下敏夫理事長ならびに附属病院澤田敏病院長から挨拶がありました。挨拶では、医療安全が患者さん、患者さんの家族、医療従事者、そして医療を提供する医療機関において非常に重要であるとの認識

が語られ、医療における安全の重要性を再認識するという本会の目的などが語られました。

3病院から5名の演者が、各病院での医療安全・感染制御に関する取組みや事例の発表を行い、発表の後には質疑応答の時間も設けられ、遠隔中継された病院間で他院の事例を自分たちの職場における安全性向上に役立てようと、積極的に質問する姿が見られました。閉会挨拶では総合医療センター杉浦哲朗病院長から、“後ろ向き”の事例分析、“前向き”の事例分析双方を含む各病院での取り組みを共有できたことへのねぎらいの言葉があり、会が締めくくられました。



附属病院会場の様子



総合医療センター会場の様子



香里病院会場の様子

【当日の発表プログラム】

第一部<附属病院> 座長：附属病院医療安全管理部 岡崎和一 部長

「画像／病理検査報告書の見落とし対策」…………… 医学安全管理センター 宮崎浩彰 副センター長

「インフルエンザの正しい知識」…………… 附属病院感染制御部 宮下修行 部長

第二部<香里病院> 座長：香里病院医療安全管理部 廣原淳子 部長

「当院における ICT 活動－尿グラム染色院内実施の取り組み－」… 香里病院感染制御部 濱田聡子 部長

第三部<総合医療センター> 座長：総合医療センター医療安全管理部 金田浩由紀 部長

「手術室における体内遺残防止対策」…………… 総合医療センター看護部中央手術部 四方美由紀 師長

「インバウンド感染症－国際的スポーツイベントを控えて－」…………… 総合医療センター感染制御部 岩瀬正顕 部長

病院

関西医科大学3附属病院「看看連携の会」開催

2019年11月30日(土) 14時から、枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、2019年度大阪府訪問看護ステーション協会北河内ブロック・関西医科大学3附属病院「看看連携の会」を開催しました。

今回は「職場や地域社会で活躍できる人材育成」がテーマで、大阪府北河内医療圏の医療・福祉・介護に携わる医療関係者をはじめ144名が参加しました。

まず附属病院伊地知仁美看護副部長が「社会人基礎力を活用した看護職育成」と題して、大学病院の教育の視点から看護実践の基礎となる社会人基礎力について講演して頂きました。続いて看護学部在宅看護領域李錦純准教授が「大学における在宅看護教育の現状－訪問看護実習における学生の学びと気づき－」と題して、看護学部の教育の視点から講演して頂きました。李准教授は看護学部の学生が、在宅看護実習などを通して入院前から退

院後までの生活を見据えた支援に生かせるようなテーマを設定し、在宅看護教育について紹介されました。

閉会后、3階学生食堂では懇親会を開催し、普段じっくりと話す機会の少ない地域の医療従事者と本学医療機関関係者とが、親睦を深めました。



講演を行う、伊地知看護副部長(左)と李准教授(右)

附属病院

「令和元年度第2回救急フォーラム」開催

2019年11月27日(水) 18時から枚方学舎医学部棟1階第1講義室で、ハートセンター主催の「令和元年度第2回救急フォーラム」が開催され、北河内二次医療圏内の消防機関から44名の救急隊員が参加しました。

従来は循環器に特化した内容でしたが、救急隊員の幅広いニーズに的確に応え救急現場でより活用できる知識・技能を提供するため、本年度から救急医学科も共同講演を行う形式に変更しました。

フォーラムでは、ハートセンターの川副浩平センター長の開会挨拶の後、救急医学科の池側均准教授が「出血性ショックの理解とターニケット・止血帯の紹介」と題して、循環器内科の塩島一朗教授が「実症例から学ぶモニター心電図読影のポイント」と題して講演し、最後に松田公志副病院長から閉会挨拶がありました。

フォーラム終了後は枚方学舎医学部棟4階カフェテリアで医師と救急隊員との意見交換会も行われました。救

急隊員からは「救急現場で大切な止血のことが良く理解できた」、「難しい心電図の読み方を分かり易く説明して頂いて大変参考になった」、「普段接することの少ない医師の方々と話ができて、いろいろと意見を聞いて頂いて大変嬉しかった」などの感想が多数寄せられました。医師と救急隊員が積極的な意見交換を通じ共に地域の救急医療に協力していくことを確認し合う貴重なひと時となりました。



ターニケットの装着を行う参加者

附属病院

スマイル会を開催

2019年11月30日(土) 14時から、附属病院13階講堂においてスマイル会が開催され、市民ら28名が参加しました。これは、医師・看護師・薬剤師・栄養士等が、胃切除の後遺症や抗がん剤の副作用対策、心のケア方法、手術後の食事療法等について、講演会形式で話をするもので、毎年開催しています。消化管外科井上健太郎准教授による挨拶のあと、講師には、同向出裕美助教・同三木博和助教・薬剤部石倉遥薬剤師・看護部鮫島美来看護師・栄養管理部村田麻由佳管理栄養士・地域医療連携部大石まどか医療ソーシャルワーカーを迎え、それぞれ講演を行いました。

質疑応答の時間には、参加者からの質問に対し、別の参加者が体験談からのアドバイスを行うなど参加者同士の交流も見られました。アンケート結果より、「役に立

った」「具体的な説明でとても分かりやすかった」「患者ご本人の意見が聞けた事がよかった」「他の方の悩みや工夫を聞いてよかった」等の感想をいただき、充実した会となりました。



参加者の質問に答える講演者達

附属病院 **保育所クリスマス会を開催**

2019年12月19日(木) 10時から、附属病院保育所においてクリスマス会が開催されました。これは園児とその保護者が保育所で交流できるイベントです。保育所長である島村里香看護部長の挨拶で始まり、普段は一緒にいられない時間に保護者と共に過ごした園児たちは、保育士たちの催し物を見たり、音が出るおもちゃを受け取って音を鳴らしたりしながら笑顔を見せていました。

その後サンタクロースが登場し、驚いた様子をみせた園児たちでしたが、プレゼントをもらったあとは保護者達と楽しそうに写真に納まっていた様子。



クリスマス会の様子

総合医療センター **TAKE! ABI 2019 in KANSAIが開催**

2019年10月20日(日) 10時から総合医療センター本館1階エントランスホールにおいて、「TAKE! ABI 2019 in KANSAI」が開催され、7回目の今年は守口市民他180名が参加しました。ABI(ankle brachial index)とは、手と足の血圧差から動脈硬化が起こっていないか、また重症化する可能性がないかを調べる検査で、脳梗塞や心筋梗塞の危険性を測ることができるもの。参加者は測定結果をもとに、医師から説明を受けました。

また、同日正午からは同センター南館2階臨床講堂において市民公開講座「気になってませんか? 足のむくみ」を開講。総合医療センター血管外科駒井宏好診療教授(心

臓血管外科学講座)が座長を務め、同高井佳菜子助教の講演に一般市民は興味深く聞き入っていました。



手首と足首の血圧測定を行うブースが並びました

総合医療センター **世界糖尿病デーフェスタ2019開催**

2019年11月16日(土) 13時から、総合医療センター本館1階において「世界糖尿病デーフェスタ2019防ごう! 知ろう! 糖尿病! 『糖尿病と歯の健康』〜ストップ! 歯周病〜」が開催され、今年で7回目となるイベントに患者さんやそのご家族など75名が来場しました。

当日は、ふるや歯科クリニック山神都子氏による「糖尿病と歯の健康」と題した講演でプログラムがスタート。その後は、「お口の細菌チェック」「インスリン体験」「握力測定」「医師相談コーナー」や、看護学部教員の協力により設置された「生活習慣チェック」など、様々な体験コーナーが設けられ、熱心に説明を聞いたり体験に取り組んだりする参加者の姿が見られました。体験コーナー終了

後には総合医療センター健康科学センター久保田真由美健康運動指導士による運動実演が行われ、椅子に座ったままできるスクワットなどの運動に参加者が取り組みました。



インスリン体験コーナーの様子

総合医療センター

第22回市民健康講座を開講

2019年10月21日(月) 14時から、守口文化センターエナジーホール(守口市)において、「関西医大がはじめた訪問看護・リハ、デイケアについて」をテーマに、第22回総合医療センター市民健康講座が開催され、守口市民ら64名が参加されました。

総合医療センター杉浦哲朗病院長の開会挨拶の後、関医デイケアセンター・滝井菅俊光センター長の「なぜ大学で訪問看護・リハ、デイケア?」、関医訪問看護ステーション三頭佐知子管理者の「訪問看護のご紹介」、関医訪問看護ステーション田中智観作業療法士の「自宅で行うリハビリテーション」、総合医療センターリハビリテーション科中野真宏理学療法士の「関医デイケアセンター・滝井 ～大学病院での新たな取り組み～」、関医ケ

アプランセンター・滝井 長野良ケアマネージャーの「介護保険制度と申請について」の計5講演を行いました。講演後には事前に寄せられた質問に各演者が答え、参加者は真剣に聞き入っていました。



寄せられた質問に答える4人の演者、右は司会の菅センター長

総合医療センター

総合医療センター災害訓練実施

2019年11月2日(土) 9時から、総合医療センターにて、災害訓練が実施され、総合医療センター教職員約130名が参加して行われました。

今回は同日8時50分に守口市において震度6強を観測した地震が発生し、近隣地域では家屋の倒壊が発生、負傷者が搬送や独歩で多数来院するという想定で行われました。

訓練では模擬傷病者が本館1階エントランスホールに設置されたトリアージポストに多数搬送。それぞれの重症度・緊急度により赤・黄・緑・黒ゾーンに振り分けられ、各所で治療が施されました。また、南館2階に設置された対策本部で全体の統括が行われました。

訓練終了後の総括においてはそれぞれのゾーンで訓練を行って得られた知見が共有され、今後の災害時対応に活かしていくことが確認されました。



模擬傷病者が次々と運び込まれるトリアージポスト

附属看護専門学校

令和元年度ホームカミングデイ開催

2019年10月5日(土) 10時から、附属看護専門学校牧野キャンパスにおいて「附属看護専門学校37期生ホームカミングデイ」が開催されました。この日は、今春学校を巣立った37期生の25名が参加。35期生の先輩4名も加わり、看護師として働いてきた中での体験談やアドバイスと共に37期生へエールを送りました。

その後、仲間同士やお世話になった教員と歓談し、最後は卒業記念に37期生が寄贈した、ソメイヨシノの木を囲んで集合写真を撮り、全プログラムが終了。参加者は名残惜しそうに牧野キャンパスを後にしました。



参加者の記念撮影

第34回キャンドルサービス実施

2019年12月18日(水) 15時30分から附属病院1階センターアトリウム及び各病棟において附属看護専門学校学生による第34回キャンドルサービスが実施されました。このイベントは日頃お世話になっている患者さんに安らぎと希望を与えると共に、奉仕の精神を養うために毎年開催しています。

まず学生は、各ナースステーションに手創りのクリスマスカードを届け、グループごとに「きよしこの夜」を歌いながら病棟廊下を進み、ディルムで合流し、クリスマスソングを2曲合唱。その後全員がセンターアトリウムに集合し、クリスマスソングを4曲合唱しました。

入院中の患者さんやご家族はセンターアトリウムに集まり、それぞれにクリスマスの訪れを感じているようでした。



センターアトリウムに集合し、歌を披露する学生

令和元年度臨床研修指導医養成講習会開催

2019年10月11日(金)・12日(土)の2日間、ホテルフクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)において「令和元年度臨床研修指導医養成講習会」が開催され、学内関係者25名、学外研修協力病院関係者8名の合計33名が受講しました。

これは臨床研修指導医に必要な講習会で、厚生労働省が定めた指針に基づき、修了証書の取得を目指して毎年実施するもの。アドバイザータスクフォースとして、聖路加国際病院福井次矢院長、国立病院機構関門医療センター林弘人病院長を招聘し、ワークショップ形式での

全体討議、グループワーク、ミニレクチャーが行われ、活発な議論が交わされました。



講演に耳を傾ける参加者

初期臨床研修合同説明会開催

2019年11月16日(土)15時から附属病院13階講堂において、2021年度以降の研修医採用に向けた「初期臨床研修合同説明会～一緒に考えよう。医師としての大切な第一歩～」が開催されました。今年は本学から5名、他大学から18名の4・5学年医学部学生23名が参加しました。卒後臨床研修センター岡田英孝副センター長(産科学・婦人科学講座教授)から臨床研修モデル、募集定員やスケジュールなどの説明、引き続き本学で研修中の研修医から、自身の研修体験談や普段の日常生活を踏まえた説明があり、参加者は真剣に聞き入っていました。また、説明会終了後に開催された情報交換会では学内指導医も出席し、医学生と終始和やかな雰囲気で見聞交換するなど、盛況のうちに終了しました。

本学教職員編著作物の紹介

2019年1月～2019年12月に発行された本学教職員編著作物を紹介します。※判明分のみ

- 『移行理論と看護—実践,研究,教育—』
看護学部 片田 範子 学部長 翻訳
アフアフ イブラヒム メレイス(監修)
■出版 学研プラス ■発行 2019年2月13日
- 『Endourology Progress』
腎泌尿器外科学講座 松田 公志 教授他 監修・著
■出版 Springer ■発行 2019年4月
- 『訪問看護・介護事業所必携!暴力・ハラスメントの予防と対応 スタッフが安心・安全に働くために』現場で使える チェックシート 研修資料ダウンロードつき
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授 監修・著
一般社団法人 全国訪問看護事業協会 編著
■出版 メディカ出版 ■発行 2019年3月
- 『医療情報 医学医療編』
大学情報センター 仲野 俊成 准教授他 監修・著
■出版 篠原出版新社 ■発行 2019年3月
- 『医療情報技師能力検定試験 過去問題・解説集 2019』
大学情報センター 仲野 俊成 准教授他 編集・監修
■出版 南江堂 ■発行 2019年4月

関西医科大学広報Vol.47(2019年12月13日発行)掲載内容に誤りがありました。

P1「第71回西日本医科学学生総合体育大会(西医体)開催」
(誤)田邊智世 → (正)田鍋智世

P12「平成30年度学長賞授与式を挙げる」写真
正しい写真は次の通りです。



ご本人および関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたこと、深くお詫び申し上げます。



学会主催報告

2019年10月～12月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

創立50周年記念日米脾臓学会合同学術集会

■会期 2019年11月6日から9日 ■場所 Grand Wealea Hotel (米国ハワイ州マウイ島)

■テーマ 「East meet West」

岡崎が理事長を務めている日本脾臓学会と姉妹学会を提携している米国脾臓学会がともに今年創立50周年を迎えることを記念して、日米脾臓学会合同記念学術集会を主催した。日本から300名、米国から320名、その他ヨーロッパ各国、アジア太平洋(オーストラリア、中国、韓国)から約400名、合計1000名以上が参加した。
【学術集会長：内科学第三講座 岡崎 和一 教授】



第二回心身医学関連学会合同集会

■会期 2019年11月15日から17日 ■場所 大阪市中之島中央公会堂

■テーマ 「心身医学の未来戦略 -これまでの60年、これからの60年を見ずえて-」

日本心身医学会の60周年を記念して、第60回日本心身医学会総会と同時に心身医学関連の9団体が参加して第2回心身医学関連学会合同集会が10年ぶりに開催されました。特別講演は京都大学総長の山極寿一先生、衆議院議員の野田聖子先生をはじめ、幅広い分野から現代社会における心身問題に関する講演をいただき、会員は60年後の心身医学を見据えて、「AIと心身」など、今なすべきことを活発に議論しました。天候にも恵まれ、参加人数1300人、盛会のうちに終了することができました。
【合同学会幹事会長：心療内科科学講座 福永 幹彦 教授】



第37回日本麻酔・集中治療テクノロジー学会

■会期 2019年11月30日 ■場所 大阪大学中之島センター

■テーマ 「テクノロジーを実用化する」

本学会では「テクノロジーを実用化する」と言うテーマで、企業側からはアイデアをどのように商品として実用化する道筋について解説頂きました。一方で医師側からは近未来的にこのような技術が実用化できるか、実用化してもらいたいのか、を提案し将来への展望について議論して頂きました。このようなすり合わせによって医療側が望むものを商品化して頂く足掛かりに出来たかと考えています。また、特別講演では本学精神神経医学教室准教授の吉村匡史先生に「最近の定量脳波解析手法」と言う題でLORETAなど最新の脳波解析に関してご講演頂きました。会員の勉強になる素晴らしい講演でした。会期は1日だけでしたが、多くの方に参加して頂き盛会のうちに終了することができました。【大会長：麻酔科学講座 萩平 哲 診療教授】



日本産業看護学会第8回学術集会

■会期 2019年10月26日から27日 ■場所 関西医科大学

■テーマ 「ダイバーシティの実現に向けた産業看護の力 -すべての人の多様な働き方を支えるために-」

日本産業看護学会第8回学術集会を、大会長三木明子教授、事務局長森田江助教授が務め、本学において開催しました。少子高齢化に伴い労働力人口が減少する今の時代に重要となる「ダイバーシティ」をテーマに掲げ、誰も排除することのない、多様な人材が活躍できる真の意味でのダイバーシティの実現を訴えて会を閉じました。学会として過去最多の350名の参加者を迎え、盛会裏に終了することができましたこと、ご報告いたします。【大会長：看護学部精神看護学領域 三木 明子 教授】



学会受賞等情報

2019年10月～12月の学会賞受賞者を紹介します。

APDW-Journal of Gastroenterology and Hepatology (JGH) Okuda Lectureship Award
内科学第三講座 岡崎 和一 教授

■テーマ 自己免疫性膵炎・IgG4関連疾患

■授与学会 アジア太平洋消化器病学会(APDW)2019



第69回日本泌尿器科学会中部総会 会長賞

腎泌尿器外科学講座 松崎 和炯 助教

■テーマ 前立腺生検における動画説明ツールの有用性検証

■授与学会 第69回日本泌尿器科学会中部総会



日本泌尿器内視鏡学会 カールストルツ賞

腎泌尿器外科学講座 松田 公志 教授

■テーマ わが国における泌尿器内視鏡手術の発展に大きく寄与した泌尿器科医を顕彰する賞で、泌尿器腹腔鏡手術の開発、教育、普及に貢献した功績で授与された。

■授与学会 日本泌尿器内視鏡学会



若手 JSIVA 賞

麻酔科学講座 長尾 瞳 助教

■テーマ TCIポンプのエラーのために途中からプロポフォルを持続投与した一例

■授与学会 第26回日本静脈麻酔学会



JNS-CNS Travel Award

解剖学講座 小池 太郎 助教

■テーマ Identification of new type of glia cells in the rat DRG with CLEM-Array tomography

■授与学会 中国神経科学学会



Young investigator travel award

外科学講座 良田 大典 研究医員

■テーマ Clinicopathological and immunological features of follicular pancreatitis-a distinct disease entity characterized by Th17 activation

■授与学会 The 50th Anniversary Joint Meeting of APA and Japan Pancreas Society



Young Investigator Award 優秀賞

リハビリテーション医学講座 南條 貴俊 助教

■テーマ 片麻痺患者の反張膝歩行に対する短下肢装具選択に有用な3次元歩行解析指標の抽出

■授与学会 第3回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会





教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。

(主に2019年10月1日～12月31日 ※判明のみ)

附属生命医学研究所 神経機能部門 小早川 高 特命准教授	日本経済新聞 朝刊 (10月12日)	自身が代表を務めるスタートアップ企業の脳科学香料株式会社において実用化したネズミ忌避剤について取材を受け、ネズミが嗅ぐと本能的に恐怖を感じる「チアゾリジン類恐怖臭」を突き止めたことや、生物を傷つけずに遠ざげられること、慣れによる効き目の薄れがないなどの特徴が紹介されました。
附属生命医学研究所 侵襲反応制御部門 廣田 喜一 学長特命教授	読売新聞 朝刊 (10月13日)	低酸素状態で酸素の運搬能力が高まる仕組みを解明して2019年ノーベル生理学・医学賞を受賞した米ジョンズ・ホプキンス大学グレッグ・セメンザ教授を紹介する記事において、「低酸素誘導因子(HIF)を発見したことが、低酸素応答の研究分野の発展につながった」と述べたコメントが掲載されました。
健康科学教室	河内新聞京阪版 (10月15日)	門真市と提携し、健康寿命の拡大を目指すスポーツ庁2019年度「運動・スポーツ習慣化促進事業」モデル事業をスタートさせたことが紹介され、その事業内容や門真市民プラザで実施された運動指導の様子が紹介されました。
リハビリテーション医学講座 福島 八枝子 助教	神戸新聞 朝刊 (10月17日)	第9回神戸マラソンを特集した記事の「けがの予防と対応法」のコーナーで、痛みが出た際の対応や痛みの原因、治療方法について解説しました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	NHKテキスト『きょうの健康』 2019年11月号 (10月21日)	特集「なんでも健康相談コーナー」において、高血圧・動脈硬化・糖尿病などで血管の閉塞につながる危険因子を持った、中高年と高齢者に多くみられる病気「網膜中心静脈閉塞症」について、原因や治療法などを解説しました。
放射線科学講座 中村 聡明 准教授	朝日新聞 朝刊 (11月4日)	「[がん研究の深化]から[がん治療の進化]へ」をテーマに行われた日本癌学会市民公開講座において、がんを狙い撃つ最新の放射線治療などについて講演を行ったことが改めて掲載され、講演内容が詳しく紹介されました。
眼科学講座 大中 誠之 講師	毎日新聞 夕刊 (11月27日)	大阪市中央区ドーンセンターで開催された「市民健康講座「目の勉強会」第28回講演会(主催：大阪眼科セミナー・わかさ生活)」において、「加齢黄斑変性」をテーマに講演したことが紹介されました。
友田 幸一 学長	日刊工業新聞 (11月28日)	連載企画「600校の生き残り戦略 私大トップに聞く」で医療分野の人材育成を専門的に行う大学トップとしてインタビューを受け、2021年に設置構想中のリハビリテーション学部(仮称)や新分野の研究推進、産学連携、タワー棟建設計画、クラウドファンディングによる資金調達などについて語った内容が掲載されました。
附属生命医学研究所 低侵襲反応制御部門 廣田 喜一 学長特命教授	NHK Eテレ「サイエンスZERO」 (12月8日)	「特別編！科学のノーベル賞、全部やります！」に出演し、2019年度ノーベル生理学・医学賞を受賞したグレッグ・セメンザ博士のもとで研究した経験を踏まえ、生命維持に欠かせない「低酸素応答」の仕組みについて解説しました。
小児科学講座 金子 一成 教授	釧路新聞 (12月12日)	5歳を過ぎた子どもでも昼間に尿が漏れる「昼間尿失禁」について原因や治療法などを解説し、同教授の小児科受診を呼びかけるコメントが掲載されました。
友田 幸一 学長	NHK NEWS WEB・ 新潟テレビ21UX「UXニュース」・テレビ新潟 (12月19日)	新潟県庁において新潟県花角英世知事との間で「地域枠」に関する協定書を取り交わしたことが、及び友田学長の「地域医療でしか得られない学びがあることを指導していきたい」とのコメントが放映されました。
友田 幸一 学長	新潟日報 朝刊 (12月20日)	新潟県庁において新潟県花角英世知事と医学部地域枠に関する協定書を取り交わしたことが取り上げられ、友田学長の「地域医療に貢献してもらえよう、新潟に多い病気など、地域性を考慮した指導をしていきたい」とのコメントが写真付きで掲載されました。
耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座 小林 良樹 講師	朝日新聞 朝刊 (12月25日)	読者からの病気に関する質問に回答する連載企画「どうしました」で、大人の食物アレルギーに関する読者からの質問に対し、症状や原因、治療方法、定期的に専門の医師を受診することの重要性などを回答しました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

今号から新企画「研究最前線」がスタートしました。取材の際には、先生の研究の歴史がそのまま医学の新たな一分野の歴史と重なっていることを実感しながらお話をお聞きました。ぜひ記事をご覧ください。

もう一つ、いよいよ牧野キャンパスのリハビリテーション学部棟の新築工事がスタートしました。これから本学受験生サイト等でリハビリテーション学部(設置構想中)の情報を随時発信してきますので、ぜひご覧ください。(さ)

関西医科大学広報 Vol.48

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)

FAX 072-804-2638

<http://www.kmu.ac.jp/>E-mail : kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

2020年2月25日(火)発行